

ペレにある



1999年11月 No.増刊  
北海道立天北農業試験場  
〒098-5736 枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘  
TEL 01634-2-2111  
FAX 01634-2-4686

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/tenpoku/index.htm>

## 草地酪農、その知恵と力の源泉となることをめざして 場長 所 和暢

「ペレにある」は、1994年7月の第1号をかわきりに、年6回、通巻33号まで情報を提供してまいりました。当初は技術の普及定着と天北地域の農業情報の伝達など、広い目的を考えていたようですが、最近はおつばら酪農技術情報に徹し、発行部数も800として、直接酪農家が読んで役立つ内容に編集しています。今後とも質的充実を図り、読んで得する「ヨントク・ペレにある」を目指したいと思えます。

さて、道立天北農業試験場は、宗谷、留萌・上川・網走の北部を対象とした地域密着型の試験場として、放牧を中心とした酪農技術の開発に、新得畜試、根釧農試と分担・協力しながら取り組んでいます。また、土・草・家畜の結びつきに加え、新たに経営的な評価をも含む現地実証型の総合的研究にチャレンジしています。そんなわけで、年1回、増頁として、新しい試験の紹介や関連情報を届けることにしました。

21世紀は安全で新鮮な食糧と住み良い環境がキーワードの「農業の時代」となるでしょう。最もそれに答えられるのが、この天北酪農地域ではないでしょうか。私たちは、新しい時代の技術情報の発信者でありたいと心がけています。是非、お気軽にお立ち寄りいただくと共に、ご意見、ご支援いただきたくお願い申し上げます。

### 重点研究の内容紹介

当場が場の総力を上げ取り組んでいる重点研究を紹介します。

#### (1) 集約放牧プロジェクト

天北農業試験場は地域密着型の試験場として現地実証型の総合的研究を開始しました。酪農の経営形態は多様ですが、豊かな草地資源を基盤とした収益性を追求する集約放牧をテーマとして取り上げました。

成果として、集約放牧技術の導入手順を示す考えです。

通常の試験とは異なり、フィールドを場外に求め、管内で先進的に集約放牧に取り組んでいる酪農家、放牧を導入しようとしている酪農家約13戸に協力を頂きながら関係普及センターとともに調査や実証試験などを行っています。新しい手法に基づく試験であるためそれなりの課題もありますが、良い成果が得られるよう総力を上げて取り組んで参ります。



## (2) 家畜糞尿プロジェクト

家畜排泄物の有効利用は物質循環の促進と環境汚染防止の観点からも、今日では緊急かつ最重要課題です。道立農畜試では平成6～10年度に家畜糞尿利用技術開発事業試験に総力を挙げて取り組み、①環境容量の解明と還元量の設定、②環境保全型飼養技術、③低コスト糞尿処理技術、④個別的経営評価等について検討してきました。その成果については、平成11年1月の農業試験会議に提出し、これに従来の知見も加味して「家畜糞尿処理・利用の手引き1999」を刊行し、皆様のご好評を得ているところです。しかし、家畜糞尿問題はこれで全て解決した訳ではありません。今年度から5カ年、糞プロパートIで積み残した課題、特に環境汚染防止について、①放牧地での物質動態、②ガス揮散防止、③適正施用時期と肥効率の向上、④組織的経営評価、新たな課題としては、⑤病原性微生物問題等の課題について鋭意取り組んでおります。

## (3) 牧草の栄養価及び収量向上による飼料自給率向上促進事業（略称Gプロ）

Gプロでは行政、農業改良普及センター及び試験場が一体となって草地の収量、栄養価及び土壌の実態を調査し、問題点とその対応策を明らかにし、飼料自給率の向上をめざして実施しております。調査は全道を道央・道南、道北、網走、十勝及び根釧の5ブロックに分け実施しており、そのうち道北は宗谷、留萌、上川の3支庁68ほ場を対象として行っています。主な事業内容は作況ほ調査、モデルほ調査、アンケート調査、指導資料作成、及び実証展示ほ調査です。そのうち、作況ほ調査は本年度で終了し、地域の問題点と対応策を整理する予定です。また、年4回指導啓蒙資料「Gめーる」を発行し皆様のお手元に配布しております。

## 継続して取り組む研究課題

### (1) ペレニアルライグラスの新品種育成

天北農試牧草科のメインテーマです。

北海道の多雪地帯では集約放牧用イネ科牧草としてペレニアルライグラスの良さが注目されており、栽培面積の増加にも著しいものがあります。

当科では平成4年からペレニアルライグラスの収量性、越冬性及び永続性を改良する新品種育成試験を開始し、「天北2号」を育成しましたが、今後も特徴ある優良品種の育成を進めて参ります。（牧草科）

### (2) 牧草栽培・利用試験

当地域に適する優良草種・品種の栽培及び利用法を明らかにするためペレニアルライグラス、チモシー、アルファルファ等を対照に試験を行っています。そのうち、ペレニアルライグラスについては放牧草の飼料成分表策定のための季節別の栄養価の検討を分解性蛋白、ビタミン、ミネラル等の新しい項目を加えて根釧農試と共同で進めています。



また、最近、栽培面積が増えつつあるペレニアルライグラスの採草利用についても草地の持続性、栄養価、サイレージ調製等について検討しております。

### (3) 土壌肥料試験

食料・農業・農村基本法によりこれまでの農政から大きく転換されますが、この法律では「農業の自然循環機能による持続的発展（環境保全型農業）」を基本理念の一つに掲げています。この自然循環機能の中心的役割を担っているのが土ですので、土づくりがますます重要となってきています。

土壌肥料科では、管内の土壌保全対策・草地開発・土地改良などの土づくりに関する基礎的調査を継続して行っており、土づくりの面から環境保全型農業の確立に貢献することを目指しています。（土壌肥料科）

## 農業試験場からのお知らせ

### 「ご案内と機構」

庁舎の国道側に牧草の展示ほががあります。その横に、黄色の看板が立っています。

**天北農試のご案内**  
ひらきたい、北の大地の可能性

わたしたちはこの地域の自然に合った栄養のある牧草を育て、乳牛の飼育も考え、糞や尿を肥料として使うプロジェクト研究に取り組んでいます

ぼくらがおいしくてクリーンな牛乳を飲めるように研究をしているんだ

ここは日本最北端の農業試験場です

住所: 秋田県北谷町北谷 電話: 01634-2-2111 FAX: 01634-2-4888

**沿革**  
大正5年: 天塩郡天塩村に天塩農事試験場として発足  
昭和27年: 現在地に北海道立農業試験場秋谷支場が発足  
昭和33年: 秋谷支場を天北農業試験場に改称

**機構**

総務課長	主任研究員	業務係 管理科 牧草科 草地肥料科 土壌肥料科
研究部長	主任研究員	
総括専門技術員	(主任) 専門技術員	

職員数 28名

### 「天北酪農研究会」

天北地域の酪農関係者が集い、天北地域における畜産の発展に資することを目的に、平成7年に天北酪農研究会を結成しています。現在、事務局は天北農業試験場にあり、会員代表の幹事委員、評議委員の皆様で協議して頂き、毎年、天北酪農シンポジウムを開催しています。第5回目の今年度は、去る11月11日浜頓別町を会場として“上手な繁殖管理をめざして”のテーマで実施され、約160人の参加者がありました。

### 「ホームページ」

本年4月開設しました。技術情報誌「ペレにある」のバックナンバーも入っています。ご覧下さい。